

あかり、アゲイン。

熊本大学工学部物質生命化学科 134t1726 児玉 大地

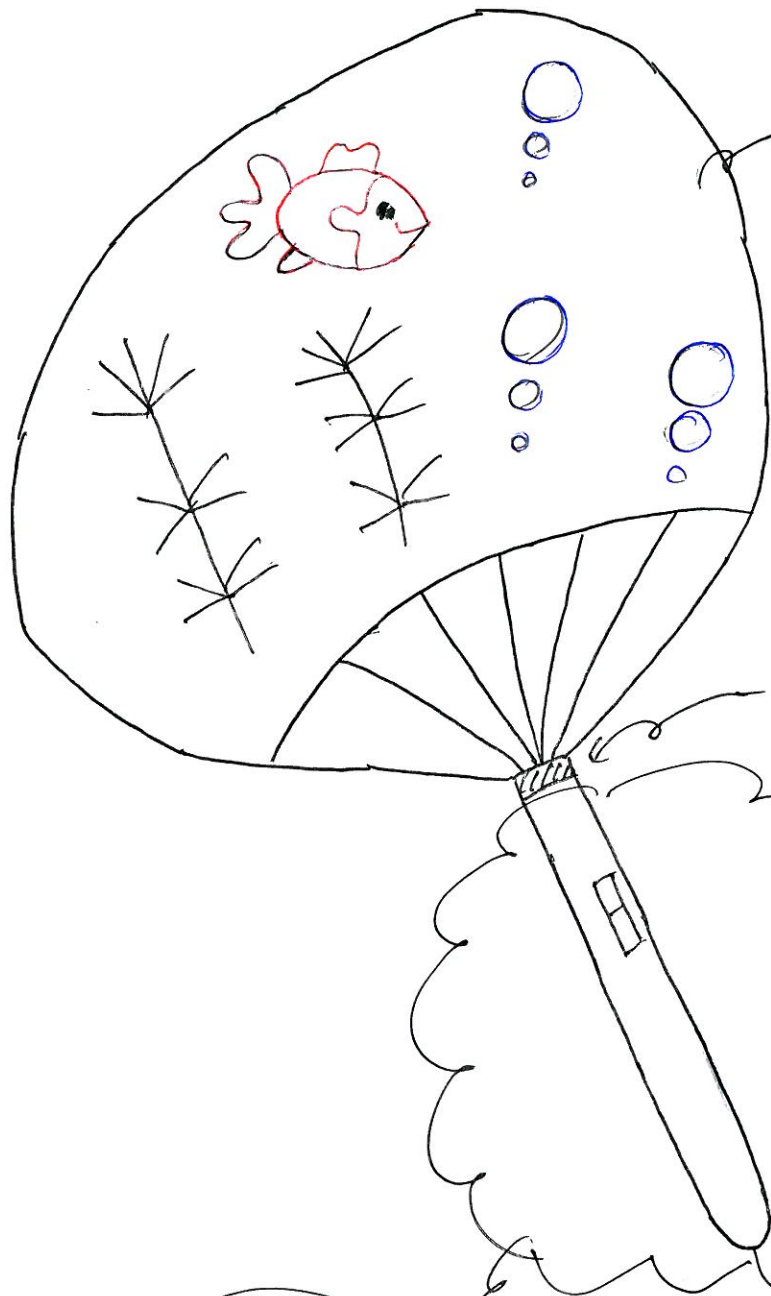
現代は常に進化を求めている。三種の神器である白黒テレビや洗濯機・冷蔵庫などから始まり、そしてインターネット、スマートフォン…。このように、生活をより良くするために人類は常に進化を求めてきた。確かに、先進国の人々などのような一般的に裕福な人々はそうかもしれない。しかし、それは一部の人々だけの話である。果たしてすべての人々が生活の発達を実感できているのだろうか？決してそうではない。そこで、敢えて世界の動きに反して、「退化」することを考えてみた。出来るだけ道具を使わずに、「退化」が進化に勝るものはないだろうかと考えてみた。ここで思いついたのが「うちわ型懐中電灯」である。

うちわと懐中電灯という、2つの機能を兼ね備えているだけでなく、スイッチによってうちわと懐中電灯に切り替えることが出来る。さらに画期的なのが、手で持つ部分によって電池にもなり、風の強さを調節できるということだ。

うちわに関しては、手の握り方によって風力の調整ができる。懐中電灯に関しては、手の熱によって光の強さを調節できる。また、様々な角度に光を向けることが出来る。これによって、一方向にしか光を当てることができない懐中電灯の欠点を補うことが出来る。

このシンプルさならば、多くの人々が最新の道具を持たなくても使用することが出来る。また、いつでもどこでも使用可能なので、便利でもある。人間の体の一部分を利用するということで、一見退化しているように見えるが、実はとても便利なものなのである。これはある意味「進化」なのかもしれない。

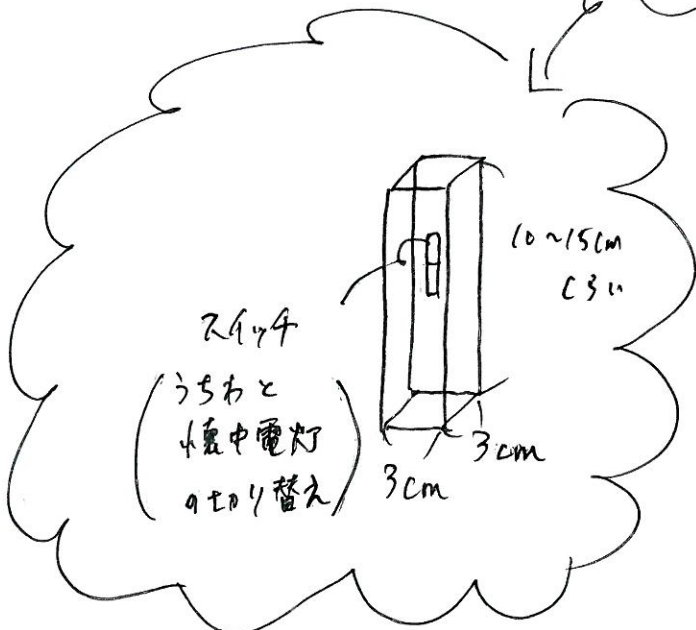
『うちわ型懐中電灯』



この表面から光を浴びせる。
表面の絵は何でもよい。

ここで、うちわの角度を決める
(うちわを動かす部分に)

- (熱)
- ・手の温度によって懐中電灯の光を調節
 - ・手の握り方によってうちわの風を調節



2474
(うちわと
懐中電灯
がとり替え)

10~15cm
0.5W

3cm
3cm